

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

—高気圧に覆われて晴れた日が多く、記録的な高温・少雨。猛暑日を多くの地点で観測—

7月上旬は、高気圧の張り出しの中となって晴れた日もあったが、気圧の谷や上空に寒気が流入して大気の状態が不安定となったため、雨の降った日もあった(5日に登別市札内町で日降水量98.0mmなど)。中旬以降は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。このため、1946年の統計開始以降、北海道地方では7月として月平均気温が高い方から第1位、月降水量が少ない方から第1位となり、記録的な高温・少雨となった。特に、16日以降、各地で猛暑日を観測し、多くの地点で観測史上及び7月としての日最高気温の高い方からの極値を連日更新した(31日に江丹別で日最高気温38.4℃など)。また、月降水量についても、多くの地点で観測史上及び7月としての少ない方からの極値を更新した(増毛で月降水量0.5mmなど)。

気温は、中旬と下旬は平年よりかなり高く、月平均気温はかなり高かった。降水量は、上旬は平年より少なく、中旬と下旬はかなり少なく、月降水量はかなり少なかった。日照時間は、上旬は平年より少なかったが、中旬と下旬はかなり多く、月間日照時間はかなり多かった。なお、旬ごとの記録で第1位となったのは、北海道地方(下旬の平均気温、中旬と下旬の日照時間)、日本海側(中旬と下旬の平均気温、下旬の降水量、下旬の日照時間)、オホーツク海側(中旬と下旬の降水量、中旬と下旬の日照時間)、太平洋側(中旬の日照時間)で記録を更新した(旬の統計期間:平均気温・降水量は1946年～、日照時間は1961年～)。

上旬

1日:高気圧の張り出し中となって晴れた所もあったが、湿った気流の影響で太平洋側を中心に雨の降った所もあった。また、大気の状態が不安定となり内陸では雨の降った所もあった。2日:はじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となり晴れた所もあった。3日:高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、大気の状態が不安定となり内陸では雨の降った所もあった。4日:はじめ高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、低気圧の接近により夜には雨の降った所もあった。5日:前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降った。日降水量は登別市札内町で98.0mmなど。6日:低気圧の影響で雨の降った所が多かったが、オホーツク海側では晴れた所もあった。7~8日:気圧の谷の中となり広い範囲で雨が降った。日降水量は7日に剣淵で51.5mmなど。9日:高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、大気の状態が不安定となり雨の降った所もあった。10日:低気圧の接近に伴い湿った気流の影響で、太平洋側では雨が降った。

中旬

11~12日:湿った気流や上空の寒気の影響で雨の降った所もあったが、晴れた所もあった。13~15日:高気圧に覆われて概ね晴れたが、湿った気流の影響で太平洋側では曇った所もあった。13日は大気の状態が不安定となり内陸では雨の降った所もあった。16日:高気圧に覆われて全道的に晴れた。17~18日:高気圧に覆われて概ね晴れたが、湿った気流の影響で日本海側北部を中心に曇った所もあった。19日:高気圧に覆われて全道的に晴れたが、大気の状態が不安定となり内陸では雨の降った所もあった。日降水量は津別町二又で55.5mmなど。20日:高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、湿った気流の影響で日本海側北部とオホーツク海側では曇った所もあった。

下旬

21~23日:高気圧に覆われて概ね晴れたが、湿った気流の影響で太平洋側を中心に曇った所もあった。24~25日:高気圧に覆われて概ね晴れたが、大気の状態が不安定となり内陸では雨の降った所もあった。日降水量は25日に東神楽町志比内で58.0mmなど。26日:高気圧に覆われて概ね晴れた。27~28日:高気圧の張り出しの中で日本海側とオホーツク海側では晴れた所が多かったが、台風第8号からの湿った気流により太平洋側を中心に雨の降った所もあった。29日:湿った気流の影響で日本海側と太平洋側では雨の降った所が多かったが、オホーツク海側では晴れた所が多かった。30~31日:高気圧の張り出し中となって晴れた所が多かったが、湿った気流の影響で太平洋側を中心に雨の降った所もあった。また、大気の状態が不安定となり内陸では雨の降った所もあった。

気候表(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間・降雪量は比(%)を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+2.8	か高	23	か少	151	か多
日本海側10地点平均	+3.0	か高	13	か少	167	か多
オホーツク海側4地点平均	+3.3	か高	13	か少	173	か多
太平洋側8地点平均	+2.3	か高	41	か少	119	多

注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期 やや遅 発生量 少

予察田の「きらら397」における葉いもちの本田初発期は、岩見沢市で平年より遅く、比布町及び北斗市では平年並だった。発生量は、比布町では平年並、岩見沢市、北斗市では平年より少なかった。

一般田における巡回調査によると、7月6半旬現在いずれの地点においても発生は認められていない。

予察田におけるいもち病の初発期

地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	7月8日	6月27日	8月4日	7月21日	10
	ななつぼし	7月8日	6月27日	8月4日	7月19日	10
比布町	きらら397	6月30日	6月22日	7月14日	7月15日	10
	ななつぼし	7月2日	6月25日	7月14日	7月16日	5
北斗市	きらら397	6月29日	6月18日	7月16日	7月18日	10

注) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	0.2	0	2.4	0	10.8	10
	ななつぼし	0	0.8	0	6.4	0	18.9	10
比布町	きらら397	0	0.6	1.5	9.0	24.0	24.1	10
	ななつぼし	0	0	0	5.4	25.0	16.9	5
北斗市	きらら397	0	0.1	2.0	4.1	3.0	12.9	10

注) 各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)				
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬		
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年	
空知	本所	7	0	0	0	0	渡島	本所	3	0	0	0	0	
	南東部	2	0	0	0	0		檜山	本所	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0			北部	2	0	0	0	0
	中空知	4	0	0	0	0		上川	本所	7	0	0	0	0
	北空知	7	0	0	0	0			富良野	2	0	0	0	0
石狩	本所	3	0	0	0	0	大雪		4	0	0	0	0	
	北部	7	0	0	0	0	士別	2	0	0	0	0		
後志	本所	4	0	0	0	0	名寄	3	0	0	0	0		
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	留萌	本所	4	0	0	0	0	
日高	西部	3	0	0	0	0		南留萌	2	0	0	0	0	

2. ニカメイガ 発生期 やや早 発生量 並

予察田のフェロモントラップにおける成虫の初発期は、長沼町で平年より早く、北斗市では平年よりやや遅かった。誘殺数は長沼町で平年より多く、北斗市では平年より少なかった。

予察田におけるフェロモントラップによるニカメイガの誘殺数

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	8.4	2.9	0	1.2
2半旬	33.7	6.6	2	1.2
3半旬	23.7	19.6	0	1.4
4半旬	171.0	13.6	0	2.9
5半旬	51.0	17.9	0	2.3
6半旬	39.0	14.6	1	2.9
初発期	6月20日	6月29日	7月10日	7月6日
平年数	9		10	

3. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：早、セジロウンカ：並 発生量 並

予察田におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、長沼町で平年よりやや遅く、比布町及び北斗市では平年より早かった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、いずれの地点においても平年より早かった。予察田による成虫誘殺数は、長沼町で平年より多く、比布町で平年より少なく、北斗市では平年並だった。予察田におけるすくい取りによる捕獲数は、長沼町及び比布町で平年並、北斗市では平年よりやや多かった。

予察田におけるセジロウンカの初発期は、長沼町及び北斗市で平年より遅かった。比布町では誘殺が認められていない。予察田における水田すくい取りによる初発期は、北斗市で平年より早かった。長沼町及び比布町では捕獲が認められなかった。予察田における成虫誘殺数は長沼町で平年並だった。北斗市では7月中は誘殺が認められなかった。予察田における水田すくい取りによる成虫捕獲数は、北斗市で平年より少なかった。

一般田における巡回調査によると、全75地点のうち、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数が吸汁害の発生する密度(成虫：1,800頭、または幼虫：900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.2	3	0.8	0	0.5	1.3	0.7	5.0	1.1	2.5	0.8
2半旬	0	1.8	0	5.0	4	0.3	3.8	2.4	0	0.5	5.0	1.0
3半旬	0	12.0	28	9.9	3	0.8	5.0	2.9	5.0	6.0	0	2.0
4半旬	1291	20.0	145	92.8	17	9.6	17.5	4.3	40.0	25.4	10.0	2.5
5半旬	31	50.1	49	300.6	9	14.3	3.8	14.5	115.0	39.0	10.0	4.8
6半旬	360	201.2	128	3340.0	10	21.6	5.0	11.3	10.0	131.8	3.3	5.5
初発期	7月16日	7月13日	7月1日	7月8日	7月7日	7月19日	7月2日	7月16日	7月4日	7月12日	7.I	7.IV
平年数	10		10		10		9		10		10	

セジロウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	0	2.0	0	0	0	0	0	0.5
2半旬	0	0	0	0.1	0	0.7	0	0	0	0	5.0	2.5
3半旬	0	0	0	0.2	0	0.3	0	0.3	0	0.5	0	2.5
4半旬	0	0	0	0	0	0.6	0	0	0	0	0	1.8
5半旬	0	0.7	0	0.4	0	1.1	0	0.1	0	0	0	0.8
6半旬	2	1.8	0	17.4	0	23.7	0	0	0	1.0	0	7.0
初発期	7月31日	7月24日	-	7月28日	8月1日	7月21日	-	8.II	-	8.III	7.II	7.V
平年数	10		10		10		9		10		10	

巡回調査によるヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取り数(20回振り)

普及センター	地点数	7月6半旬		普及センター	地点数	7月6半旬			
		本年	前年			本年	前年		
空知	本所	7	1.1	1.2	渡島	本所	3	0.7	1.0
	南東部	2	15.0	8.0		檜山	本所	2	0
	南西部	3	7.7	0	上川		本所	2	0
	中空知	4	0.3	0.5		富良野	本所	7	1.0
北空知	7	0.7	5.7	大雪	2		2.0	5.5	
石狩	本所	3	1.7	0.4	大雪	4	7.5	15.8	
	北部	7	1.3	0	士別	2	0	0	
後志	本所	4	0.3	5.5	名寄	3	0.3	0	
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	4	0.3	1.3
日高	西部	3	0.7	0		南留萌	2	0	0

4. イネドロオウムシ 発生量 やや少

予察田における幼虫数は、長沼町で平年より多く、比布町及び北斗市では平年より少なかった。被害葉率は、長沼町で平年より高く、北斗市及び比布町では平年より低かった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、全75地点のうち、移植栽培で減収する被害葉率70%に達した地点はなかった。

予察田におけるイネドロオウムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	147.5	70.4	1	76.5	7.5	64.4	44.0	16.4	0.3	17.1	3.0	12.3
2半旬	128.5	78.3	0	40.0	6.0	52.9	51.5	19.2	0.5	17.3	3.3	22.6
3半旬	102.0	73.8	0	19.7	5.0	20.7	40.2	20.2	0.4	16.7	2.3	13.7
4半旬	21.0	49.9	0	6.1	0	9.5	33.2	18.8	0.3	16.5	3.1	20.8
5半旬	50.0	21.7	0	2.1	0	6.3	34.6	18.4	0.2	15.6	2.5	13.0
6半旬	15.5	2.0	0	1.9	0	1.5	24.9	14.1	0.1	16.6	1.7	15.4
平年数	9		10		10		9		10		10	

巡回調査によるイネドロオウムシの幼虫数および被害葉率

普及センター	地点数	幼虫数				被害葉率(%)			
		6月6半旬		7月3半旬		7月6半旬			
		本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年
空知	本所	7	12.7	4.8	1.4	4.2	1.3	1.2	
	南東部	2	0	0	0	6.5	0	0	
	南西部	3	0	0.7	0	5.7	0	8.3	
	中空知	4	0.8	0.5	0	1.0	0	2.0	
北空知	7	1.0	20.0	0	0	0.6	0		
石狩	本所	3	0	0.2	6.3	1.4	1.7	4.5	
	北部	7	0.1	0	0	0.7	0	0	
後志	本所	4	0	0	0	0.8	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	0	0	
日高	西部	3	0	0	0	0	0	0	
渡島	本所	3	0.3	0	0.3	0	0	0	
檜山	本所	2	0	0	12.0	1.0	2.5	2.5	
	北部	2	0	0	0	0	0	0	
上川	本所	7	0	0	0	0	0	0	
	富良野	2	0	0	0	0	0	0	
	大雪	4	0	0	0	0	0	0	
	士別	2	0	0	0	0	0	0	
留萌	本所	3	0	0	0	0	0	0	
	南留萌	2	0	0	0	0	0	0	

注) 幼虫数は25株あたり

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回)

発生期 並 発生量 多

<7月28日付け注意報第7号>

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町及び比布町で平年並、北斗市では平年よりやや早かった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、長沼町で平年並、比布町で平年よりやや遅く、北斗市では平年よりやや早かった。

予察灯による成虫誘殺数は、長沼町で平年より多く、比布町で平年並、北斗市では平年より多かった。予察田における水田すくい取りによる捕獲数は、長沼町で平年より少なく、比布町で平年よりやや多く、北斗市では平年並だった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、水田すくい取りによる発生モニタリングでの追加防除の基準である捕獲数2頭以上(「ななつぼし」の場合)となった水田は、全75調査地点のうち、空知、石狩、後志、上川、留萌地方の計20地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	6.2	2	2.1	1	9.0	0	0	0	0	0	1.0
2半旬	2	23.2	0	1.7	5	10.7	0	0	0	0	0	0.3
3半旬	15	163.7	28	5.1	84	23.1	0	0	0	1.0	0	0
4半旬	967	229.6	49	16.3	409	67.8	0	1.0	0	2.5	0	0.3
5半旬	40	288.3	39	19.4	209	138.4	0	1.5	5.0	0.8	2.5	1.5
6半旬	1416	818.4	34	122.4	64	128.6	1.3	3.2	5.0	1.5	1.7	4.3
初発日	7月5日	7月6日	7月11日	7月11日	7月4日	7月8日	7月30日	7月31日	7月25日	7月20日	7月23日	7月26日
平年数	10		10		10		9		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の20回振りすくい取り数

普及センター	地点数	畦畔				水田			
		7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬			
		本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年
空知	本所	7	0	0.7	0.1	0	2.9	0.2	
	南東部	2	0.5	0	7.5	2.0	4.0	2.0	
	南西部	3	2.0	2.0	7.3	5.0	0.7	3.0	
	中空知	4	1.8	1.5	2.8	12.0	0.3	2.3	
石狩	北空知	7	0.6	0	0.6	0.1	0.4	0	
	本所	3	1.3	4.2	1.7	2.6	0.3	0	
	北部	7	0.3	1.1	0.9	3.0	0.6	3.0	
	後志	本所	4	1.0	0.8	0.3	0.3	1.0	0.3
胆振	東胆振	4	0	0	0.8	0.3	0	0.8	
日高	西部	3	0	0	0	1.0	0	0.3	
渡島	本所	3	0.7	2.7	1.0	0	0.7	0	
檜山	本所	2	0.5	0	0	0	0	0	
	北部	2	0	0	0.5	0	0	0	
上川	本所	7	2.1	0.1	0.7	1.8	0.3	0.3	
	富良野	2	1.5	1.5	6.0	0	2.5	0	
	大雪	4	0.3	0	0.5	0.5	1.3	0	
	土別	2	0	0	0	0	4.0	0.5	
留萌	名寄	3	3.3	0	1.0	0	2.7	0	
	本所	4	0.8	4.0	1.0	0.5	1.3	1.0	
	南留萌	2	3.0	0.5	0	0.5	0	0	

6. フタオビコヤガ 発生量 やや少

予察灯による成虫誘殺数は、いずれの地点でも平年より少なかった。第2回幼虫による予察田の被害率は、長沼町で平年並、比布町で平年より低く、北斗市では平年よりやや高かった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.4	0	59.4	0	6.6	5.2	1.4	0	1.1	0.2	0.0
2半旬	0	11.0	0	60.7	0	15.4	3.1	1.5	0	1.0	0.3	0.1
3半旬	0	25.0	0	16.1	0	7.4	0.1	1.2	0	2.1	0.6	0.0
4半旬	0	3.2	0	3.6	0	0.6	1.3	2.1	0.1	3.5	0.6	0.0
5半旬	0	1.2	0	7.2	0	0.5	2.7	2.3	0.1	4.7	0.3	0.0
6半旬	3	3.0	7	173.7	1	2.4	2.2	3.9	0	5.8	0.2	0.1
平年数	10		10		10		9		10		10	

B. 秋まき小麦

1. 赤かび病 発生量 少

予察ほ「きたほなみ」における発生量は、長沼町は平年よりやや少なく、芽室町、訓子府町は平年より少なかった。発生菌種は、長沼町及び訓子府町では *F. graminearum* の割合が高く、芽室町では *M. nivale* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	きたほなみ	2.0	4.7	10	12.0	0	84.0	4.0
芽室町	きたほなみ	1.9	11.1	10	93.3	0	6.7	0
訓子府町	きたほなみ	2.0	12.1	10	10.0	0	85.0	5.0

注) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

2. アブラムシ類 発生量 やや少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は、訓子府町で平年並であった。長沼町では発生が認められなかった。ムギクビレアブラムシの発生量は、長沼町で平年並であった。訓子府町では発生が認められなかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂あたり)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.5	9	31.4	2.5	1.1	0	10.4
2半旬	0	1.3	25	11.1	0	1.0	0	4.9
3半旬	-	0.9	7	3.6	-	0.2	0	1.6
4半旬	-	0	3	5.7	-	0	0	1.6
平年数	10		9		10		9	

注1) 25穂あたりの寄生虫数

注2) -: 調査不能

C. 春まき小麦

1. 赤かび病 発生量 少

予察ほの「春よ恋」における発生量は、比布町、長沼町いずれの地点においても平年より少なかった。発生菌種は、比布町及び長沼町のいずれも *F. graminearum* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	4.0	33.4	10	0	4.0	96.0	0
比布町	春よ恋	0.2	3.3	5	0	0	100.0	0

注) M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

D. とうもろこし

1. オオタバコガ 発生量 やや少

長沼町における誘殺数は平年より少なかった。その他の地点では、平年並であった。

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	1.9	0	0.1	0	0	0	0	0	0
2半旬	0	0.3	0	0.1	0	0	0	0	0	0
3半旬	0	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
4半旬	0	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0
5半旬	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0
6半旬	0	0.6	0	0	0	0.1	0	0	0	0
平年数	9		8		6		6		6	

E. 豆類

1. べと病（大豆） 発生期 — 発生量 少

長沼町の予察ほにおける発病は確認されていない。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	未発生	7月15日	0	0.2	0	1.9	0	11.6	10

2. 菌核病（菜豆） 発生期 早 発生量 少

芽室町の予察ほにおける初発期は平年より早かった。発生量は平年より少なかった。

7月6半旬の一般ほにおける巡回調査では、いずれの地点においても発生が認められていない。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月12日	7月22日	0	0.1	0	3.3	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	2.0	十勝	本所	3	0	0
上川	士別	1	0	0		東部	6	0	1.7
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	0	2.0
						北部	3	0	1.3
						西部	1	0	0

3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 やや遅 発生量 少

長沼町の予察ほ（小豆）における初発期は平年より遅く、芽室町の予察ほ（菜豆）では平年並であった。発生量は芽室町では平年より少なかった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、十勝地方で発生が認められている。

予察ほにおける灰色かび病発生状況(小豆)

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	8月10日	8月3日	0	0	0	0.2	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況(菜豆)

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月20日	7月21日	0.1	1.2	0.4	6.7	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	0	0
後志	本所	2	0	0	網走	本所	2	0	0
胆振	本所	2	0	0		網走	2	0	0
	東胆振	3	0	0		美幌	3	0	0
檜山	本所	2	0	1.5	十勝	本所	5	0	0
	北部	1	0	0		東部	6	0	0
上川	富良野	2	0	0		東北部	4	0	0
	大雪	3	0	0		北部	3	0	0.7
	士別	2	0	0		西部	2	0	0
						南部	3	1.0	0

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	3	0	3.0
上川	士別	1	0	0		東部	6	0	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	0	2.5
						北部	3	0	2.3
						西部	1	5.0	10.0

4. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 やや少

予察ほにおける食害程度は、大豆では長沼町及び訓子府町で平年よりやや低かった。小豆では長沼町で平年より低く、訓子府町では平年並であった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	8	10.4	3	4.3	3	8.3	1	1.3
2半旬	9	13.5	6	7.2	2	8.9	1	2.0
3半旬	8	20.5	10	10.3	3	11.0	2	3.6
4半旬	13	23.1	9	15.4	5	12.5	3	6.0
5半旬	20	31.0	13	22.2	5	14.6	10	8.8
6半旬	23	34.5	17	26.1	6	17.4	15	11.2
平年数	10		9		10		9	

5. ジャガイモヒゲナガアブラムシ（大豆） 発生量 並

予察ほの大豆における寄生虫数は、芽室町で平年より多く、訓子府町で平年並だった。長沼町では寄生が認められなかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	2.7	3	3.0	6	4.3
2半旬	0	2.2	7	4.2	0	2.2
3半旬	0	0.7	27	5.5	2	3.0
4半旬	0	0.1	13	7.9	7	3.2
5半旬	0	0.8	3	4.0	0	1.7
6半旬	0	0.4	0	3.2	0	0.8
平年数	10		10		10	

注)25株2小葉、計50小葉の寄生虫数。

6. マメアブラムシ（小豆） 発生量 多

予察ほの小豆における寄生株率は、長沼町、芽室町及び訓子府町で平年より高かった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	40	10.4	64	17.8	20	8.0
2半旬	72	12.0	72	22.4	48	7.1
3半旬	36	12.4	68	17.2	60	12.0
4半旬	4	4.9	20	14.8	68	12.9
5半旬	0	3.1	4	8.0	16	11.1
6半旬	0	2.7	12	2.4	8	8.9
平年数	9		10		9	

F. ばれいしょ

1. 疫病 発生期 遅 発生量 並

＜7月6日付け注意報第3号＞

予察ほの「とうや」における初発期は、北斗市及び芽室町では平年より早く、長沼町及び訓子府町では発生が確認されていない。発生量は、北斗市では平年より多く、芽室町では平年よりやや多かった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると胆振、檜山、オホーツク及び十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	未発生	7月16日	10
	スノーマーチ	未発生	7月21日	10
北斗市	とうや	6月25日	7月8日	10
芽室町	とうや	6月29日	7月12日	10
	スノーマーチ	6月29日	7月14日	10
訓子府町	とうや	未発生	7月13日	10
	スノーマーチ	未発生	7月14日	10

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0	0	0.2	0	0.7	0	6.1	0	20.2	0	34.2
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0	0.9	0	5.7	0	15.0	0	26.6
北斗市	とうや	52.5	7.6	89.5	12.4	100	25.6	—	32.0	—	37.4	—	44.6
芽室町	とうや	1.0	0.7	15.0	3.5	46.0	10.7	77.5	26.0	94.0	55.1	94.0	72.7
	スノーマーチ	4.5	2.1	20.5	4.2	56.0	11.2	58.0	21.0	62.5	43.4	62.5	66.1
訓子府町	とうや	0	0	0	1.0	0	5.3	0	10.5	0	24.9	0	46.8
	スノーマーチ	0	0.1	0	0.7	0	3.3	0	8.1	0	16.2	0	37.8

注：-は茎葉の枯凋により調査不能

予察ほにおけるFLABSの予測結果の適合性

地点	品種名	萌芽日	基準月日	予測初発日	70%信頼区間	初発日	判定
長沼町	とうや	5月24日	6月19日	7月6日	6/27-7/15	未発生	×
	スノーマーチ	5月26日	7月1日	7月15日	7/10-7/20	未発生	×
北斗市	とうや	5月14日	5月27日	—	—	6月25日	—
芽室町	とうや	5月31日	6月23日	7月9日	7/2-7/16	6月29日	×
	スノーマーチ	6月2日	7月2日	7月16日	7/11-7/21	6月29日	×
訓子府町	とうや	6月2日	6月22日	7月8日	7/1-7/16	未発生	×
	スノーマーチ	6月3日	6月23日	7月9日	7/2-7/16	未発生	×

注1) 基準月日は萌芽日からの累積危険値が21に到達した日

注2) ○: 初発日が70%信頼区間内、×: 初発日が70%信頼区間外

注3) -: 6月以前のため予測初発日の計算ができない

一般ほにおけるばれいしよの疫病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	0	網走	本所	8	0	0.3	0	0.8
後志	本所	4	0	0	0	0		清里	6	0	0	0	0
胆振	本所	2	2.0	0	0	0		網走	2	1.0	3.0	1.0	17.5
渡島	本所	2	0	0	0	0		美幌	2	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	0	2.5	十勝	本所	5	0.4	0	0	0
	北部	2	1.0	0	0	0.5		東部	6	0.2	0	0.3	0
上川	富良野	3	0	0	0	0		東北部	1	0	0	0	0
	大雪	3	0	0	0	0		北部	3	0	0	0	0
	士別	1	0	0	0	0		西部	2	0	0	0	0
	名寄	1	0	0	0	0		南部	3	0	0	1.7	1.7
釧路	本所	2	0	0	0	0	釧路	本所	2	0	0	0	0
根室	北根室	3	0	0	0	0	根室	北根室	3	0	0	0	0

2. アブラムシ類 発生量 やや少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、芽室町で平年よりやや多く、訓子府町で平年より少なかった。長沼町では寄生が認められなかった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町及び芽室町で平年よりやや少なかった。訓子府町では寄生が認められなかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点においても寄生が確認されなかった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、多発生の目安となる20複葉当たり20頭の寄生数を超えたのは全64調査地点のうち、渡島地方の1地点のみであった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	2.0	8.5	2.5	1.0	7.5	0	3.5	0	0	0	3.6
2半旬	0	1.3	10.5	3.9	2.5	9.8	0	7.1	2	0.7	0	5.3
3半旬	0	0.8	18.0	6.7	5.0	7.0	0.4	12.5	0	0.1	0	15.6
4半旬	0	0.5	7.5	7.9	1.5	5.5	2.0	16.5	0	1.1	0	24.6
5半旬	0	0.3	0	5.7	0.5	5.1	1.0	9.1	0	2.6	0	51.5
6半旬	0	0.3	0	2.4	0	2.8	0	2.5	0	2.3	0	37.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしよのアブラムシ類寄生虫数

普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種	
		本年	前年	本年	前年		
空知	南東部	1	0	0	0		
後志	本所	4	0	0	0.3		
胆振	本所	2	0	4.0	0		
渡島	本所	2	3.5	10.5	19.5	ワタ	
檜山	本所	2	0	0.5	0		
	北部	2	0	0	0		
上川	富良野	3	0	0	6.7		
	大雪	3	0	2.7	0.3		
	士別	1	1.0	0	0		
	名寄	1	0	0	0		
網走	本所	8	1.5	1.8	0		
	清里	6	1.5	0	3.2	ヒゲナガ、モモアカ、ワタ	
	網走	2	0.5	0	0		
	美幌	2	0	0	2.0		
十勝	本所	5	1.2	0	0		
	東部	6	0.2	0.2	0.3	ヒゲナガ	
	東北部	1	0	3.0	0		
	北部	3	0	0	0		
	西部	2	0.5	0.5	3.0	ヒゲナガ	
南部	3	0	0	0			
釧路	本所	2	0	1.0	0.5	1.0	ヒゲナガ
根室	北根室	3	0.3	0.7	4.0	1.3	ワタ

注1) 10株20複葉調査

注2) ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

G. てんさい

1. 褐斑病 発生期 早 発生量 やや少 <7月12日付け注意報第5号>

予察ほにおける初発期は、長沼町及び芽室町の「あまいぶき」では平年より早く、訓子府町の「ライエン」では平年よりやや早かった。発生量は長沼町の「あまいぶき」で平年並、芽室町の「あまいぶき」、訓子府町の「ライエン」では平年よりやや少なかった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、石狩、胆振、オホーツク、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	あまいぶき(弱)	6月25日	7月11日	1.2	0.9	1.2	2.2	9.2	9.1	10
	ライエン(やや強)	6月26日	7月13日	0	0.3	0	1.4	2.4	3.7	6
芽室町	あまいぶき(弱)	6月27日	7月10日	0.8	1.9	0.8	3.3	7.2	11.5	8
	ライエン(やや強)	6月28日	7月7日	0.8	2.5	0.8	3.3	3.2	6.7	6
	スタウト(強)	6月28日	7月12日	0.4	2.2	0.4	2.5	0.4	7.6	9
訓子府町	ライエン(やや強)	7月9日	7月13日	0.4	0.3	0.4	1.7	1.2	6.3	10

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	0	網走	本所	9	0.2	0.1	0	0.5
			0	0	1.3	2.0			6	0	0	0	0
石狩	本所	3	0	0	0	0	網走	2	0	2.0	0	2.5	
後志	本所	3	0	0	0	0	美幌	5	0	0	0	0	
			胆振	本所	4	12.0	0	3.0	0.5	遠軽	3	0	1.0
上川	富良野	3	0	0	0	0	十勝	本所	7	0	0	0.7	0
			0	0	0	0			5	0	0	0	0
大雪山	大雪山	3	0	0	0	0	東部	5	0	0	0	0	
			0	0	2.0	0	4.0	4	0.3	0.5	0.3	0.3	
名寄	名寄	2	0	5.0	0	0	北部	3	0	0	0	0	
			0	0	0	0	0	西部	3	0	0	0	2.0
名寄	名寄	2	0	5.0	0	0	南部	3	0	0	0.3	0.3	

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 やや少

予察ほにおける見取り調査では、訓子府町で卵塊が確認された。長沼町及び芽室町では卵塊が確認されなかった。食害程度は、長沼町及び訓子府町で平年よりやや低く、芽室町で平年並だった。

一般ほにおける7月3半旬の巡回調査によると、被害株率が50%以上となった地点は認められなかった。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.4	0	0.4	0	0	17.0	23.1	19.5	11.2	0	2.6
2半旬	0	0.4	0	0	0	0	21.0	34.1	20.0	16.6	1	6.2
3半旬	0	0.2	0	0	1	0	32.5	41.8	25.0	23.4	5	10.6
4半旬	0	0	0	0	0	0	33.5	52.8	29.5	28.6	10	15.6
5半旬	0	0	0	0	0	0	35.0	56.6	29.0	32.2	17	20.8
6半旬	0	0.3	0	0.1	0	0	36.0	58.2	32.0	33.8	19	24.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター	地点数	被害株率(%)		食害程度		
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	0	0	0	
石狩	本所	3	12.0	23.3	0.7	11.3
後志	本所	3	6.7	10.0	5.0	10.3
胆振	本所	4	14.0	20.3	5.5	6.3
	東胆振	3	12.0	11.0	3.7	10.7
上川	富良野	3	5.0	10.0	1.7	7.0
	大雪	3	0	24.0	1.7	16.3
	士別	2	5.0	6.0	1.0	12.0
	名寄	2	29.0	43.0	25.0	11.8

普及センター	地点数	被害株率(%)		食害程度		
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
網走	本所	9	16.9	4.8	14.3	4.6
	清里	6	17.3	0.8	11.5	2.7
	網走	2	33.0	7.0	20.5	10.0
	美幌	5	4.8	6.2	8.8	4.4
	遠軽	3	26.7	10.9	23.7	11.2
十勝	本所	7	16.1	14.8	4.3	3.0
	東部	5	6.2	17.7	4.6	5.2
	東北部	4	21.5	6.8	12.3	10.5
	北部	3	0	0	0	0
	西部	3	9.7	8.7	3.7	1.3
	南部	3	2.3	0	6.3	0

H. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生量 やや少

予察ほにおける発生量は、長沼町では平年よりやや少なく、訓子府町では平年より少なかった。一般ほにおける巡回調査の報告によると、空知、オホーツク、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	25.0	32.4	25.0	49.5	—	70.8	10
訓子府町	北もみじ2000	0.5	5.7	1.5	11.6	6.0	22.3	9

注：-は他病害により調査不能

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)				
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
空知	本所	5	0	0	0	0
	南東部	3	3.7	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0
	中空知	1	0	4.0	0	16.0
石狩	北部	2	0	0	0	0
上川	富良野	4	0	0	0	3.0
	大雪	1	0	0	0	0
	士別	1	0	8.0	0	0

普及センター	地点数	発病株率(%)				
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
網走	本所	8	0.5	0	0.3	6.8
	清里	2	0	1.5	0	6.0
	美幌	4	1.3	2.5	0.3	0
	遠軽	1	2.0	11.3	2.0	19.0
	十勝	本所	3	0.7	0	0.7
東部	2	11.0	21.0	13.0	23.0	

2. ネギアザミウマ 発生量 やや多

＜7月12日付け注意報第6号＞

予察ほにおける寄生虫数は、長沼町及び訓子府町とも平年よりやや多かった。被害程度は、長沼町及び訓子府町で平年よりやや高かった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、全40調査地点のうち、寄生株率が50%以上となったのは空知及び十勝地方の5地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	成虫数(25株あたり)				幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	57	66.9	53	66.8	34	199.8	614	1247.1	46	28.1	65	57.2
2半旬	226	105.5	237	112.9	488	350.3	682	1494.5	58	38.3	78	71.3
3半旬	287	106.3	296	126.5	463	435.9	1028	1597.7	69	46.6	94	82.6
4半旬	241	125.1	279	113.5	1406	1331.2	909	1712.0	83	55.0	94	92.3
5半旬	-	112.0	313	70.0	-	504.7	920	1642.7	100	60.5	100	95.3
6半旬	-	41.4	322	37.8	-	207.1	1591	1667.9	-	48.4	100	97.7
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) -:倒伏により調査不能

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬		普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬			
		本年	前年	本年	前年			本年	前年	本年	前年		
空知	本所	5	24.8	80.0	26.4	100.0	上川	富良野	4	8.0	2.0	1.0	8.0
	南東部	3	29.3	1.7	22.7	83.3		大雪	1	25.0	40.0	30.0	45.0
	南西部	3	70.7	65.3	42.7	58.7		士別	1	5.0	0	28.0	12.0
	中空知	1	20.0	4.0	4.0	16.0		網走	本所	8	3.0	2.8	5.3
石狩	北部	2	0	10.0	0	25.0	清里		2	60.0	64.0	4.5	76.0
							美幌		4	7.0	8.0	4.0	5.0
							遠軽		1	22.0	32.0	42.0	45.0
十勝	本所	3	24.3	52.7	33.3	34.0	東部	2	14.0	92.0	56.0	96.0	

I. あぶらな科野菜

1. 軟腐病 発生量 少

予察ほ(だいこん)の春まき作型及び初夏まき作型では発生が認められていない。

予察ほにおける軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	おしん	春まき	0	0	0	0.3	0	1.5	10
		耐病総太り	初夏まき	-	-	0	0	0	0.5	10

注) -:調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年よりやや多く、北斗市では平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.1	16	17.3
2半旬	2	13.3	66	33.2
3半旬	52	28.5	87	71.4
4半旬	68	61.9	149	65.8
5半旬	65	50.1	145	71.4
6半旬	82	33.0	84	32.2
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

3. コナガ 発生量 やや多

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、長沼町及び訓子府町で平年よりやや少なく、比布町、北斗市及び芽室町で平年よりやや多く、滝川市では平年より少なかった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多く、北斗市では平年並だった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町		滝川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	7	47.5	19	14.2	148	26.9	9	6.5	1	5.6	2	15.7
2半旬	10	80.7	22	20.7	90	38.9	2	6.7	3	6.0	3	13.5
3半旬	32	128.9	14	14.8	45	56.0	4	2.8	0	7.2	7	10.5
4半旬	142	136.6	36	9.8	70	51.6	25	3.1	1	5.6	4	27.3
5半旬	57	92.4	18	10.3	58	45.6	8	2.5	4	5.3	9	14.5
6半旬	135	109.8	3	7.2	34	66.8	3	2.0	4	5.3	2	9.5
平年数	10		6		10		10		10		6	

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	1.3	8	7.0
2半旬	0	5.8	40	21.7
3半旬	9	27.2	83	35.7
4半旬	33	69.5	90	98.0
5半旬	312	148.1	78	177.0
6半旬	280	126.8	105	115.2
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

J. りんご

1. 黒星病 発生量 やや多

長沼町の予察園（無防除）での発生量は、「昂林」及び「ふじ」のいずれの品種とも平年より多かった。一方、余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、いずれの地域でも発生が認められていない。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	50.6	13.3	59.7	18.5	69.5	24.8	10
	ふじ	36.9	26.4	52.8	36.6	58.7	44.5	4

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	昂林	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 調査品種変更に伴い平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	2	0	0
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）における発生量は平年よりやや多かった。余市町の予察園（慣行防除）では新梢及び徒長枝のいずれでも発生は認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、発生は認められていない。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	新梢	4.5	1.3	3.8	2.4	5.0	2.8	10
王林	徒長枝	3.5	0.5	3.4	1.0	2.6	2.1	10

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	新梢	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
昂林	徒長枝	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 調査品種変更に伴い平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	1.0
留萌	南留萌	1	0	9.0

3. ハマキムシ類 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、長沼町で平年よりやや少なく、余市町Bで平年より少なかった。余市町Aでは誘殺が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市、札幌市、壮瞥町及び七飯町で平年並、旭川市では平年よりやや多かった。石狩市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3.0	10.7	0	2.4	0.8	2.0
2半旬	5.8	6.3	0	0.7	0	1.2
3半旬	3.5	2.9	0	0.4	0	0.5
4半旬	0.8	2.6	0	0.3	0	0.8
5半旬	0	0.4	0	0.1	0	1.7
6半旬	1.0	0	0	0.1	0	1.0
平年数	10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3.1	0.9	2.5	6.6	0	1.6	0.7	1.2	6.4	5.6	2	2.3
2半旬	1.9	0.2	4.1	3.3	0	0.9	0.8	0.3	1.9	3.5	5	0.6
3半旬	0	0.3	7.1	1.4	0	0.0	0.6	0.1	0.4	1.2	7	0.4
4半旬	0	0.2	0	0.7	0	0.4	0	0.1	0	0.7	4	0.4
5半旬	0	0.1	0	0.3	0	0.3	0.7	0.0	0	0.1	0	0.1
6半旬	0	0.1	1.4	0.2	0	0.1	0.9	0	0	0.3	3	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

4. モモシクイガ 発生量 やや多

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町で平年より多く、余市町Aで平年より少なく、余市町Bでは平年よりやや少なかった。長沼町の予察園における産卵数は平年より多く、被害果率は平年より高く、その上昇はやや早かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市、札幌市及び七飯町で平年より多く、壮瞥町で平年並、旭川市では平年よりやや多かった。

巡回調査では、調査対象の5園地いずれにおいても産卵は確認されなかった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	30.0	25.6	2.5	12.9	9.2	20.5	77	23.5	0	0.1
2半旬	143.5	48.2	11.3	14.9	8.1	24.7	192	58.1	2	2.0
3半旬	72.5	52.7	10.2	19.4	8.3	25.1	304	125.7	25	10.4
4半旬	282.0	78.3	8.6	23.7	8.6	34.4	338	155.4	84	36.9
5半旬	258.0	79.2	10.7	33.7	20.0	39.6	264	212.8	100	64.4
6半旬	349.0	110.3	16.9	42.3	53.1	61.5	354	147.5	100	84.3
平年数	10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	13.8	1.1	31.1	9.8	2.5	6.0	0	0.7	29	13.0
2半旬	18.3	3.8	44.9	15.0	4.0	6.8	9.7	1.9	32	19.1
3半旬	26.6	5.5	60.7	23.0	6.8	8.0	17.0	5.0	39	23.1
4半旬	40.1	7.9	45	22.6	14.2	9.5	24.3	14.2	43	29.6
5半旬	68.6	8.1	45	22.0	3.6	8.3	112.1	26.6	40	35.4
6半旬	97.3	11.2	63.3	27.5	10.6	8.2	112.9	56.6	40	37.1
平年数	10		10		10		10		10	

5. ハダニ類 発生量 少

予察園においては、いずれの地点においてもリンゴハダニの発生は認められなかった。ナミハダニの発生量は、余市町A及びBで平年より少なかった。長沼町では発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.4	0	0.4	0	0.4	0	0	0	1.5	0	5.2
2半旬	0	0.4	-	0	-	0	0	0	-	0.9	-	1.0
3半旬	0	0.2	0	2.1	0	0	0	0.1	0	0.7	0.6	0
4半旬	0	0.7	0	0.1	0	1.8	0	0.5	0	3.4	0.7	6.4
5半旬	0	0.2	-	0.3	-	0	0	0	-	3.0	-	3.0
6半旬	0	0.4	0	0.1	0	1.4	0	0	1.0	3.7	0	3.1
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

6. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町及び余市町Aで平年よりやや少なく、余市町Bでは平年並であった。被害葉率は、長沼町で平年よりやや低かった。余市町A及びBでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市で平年より多く、札幌市、旭川市及び増毛町で平年並、石狩市、壮瞥町及び七飯町では平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	3	7.0	39.2	33.6	101.7	56.9	0.6	0.4	0	0.0	0	0.0
2半旬	1	6.1	52.5	33.9	87.5	43.5	0.2	0.5	-	0	-	0
3半旬	0	7.0	35.5	45.9	73.9	31.9	0	0.7	0	0	0	0
4半旬	2	6.7	10.0	60.5	53.6	31.4	0.8	1.2	0	0	0	0.1
5半旬	3	6.4	12.9	53.2	175.0	72.2	0.8	0.8	-	1.1	-	0.7
6半旬	15	9.4	9.1	84.5	73.4	264.8	0.8	2.3	0	1.2	0	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		旭川市		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	70.0	11.8	1.1	0.5	1.1	23.9	0	45.1	5.0	48.0	1	3.1	152.0	67.7
2半旬	104.3	16.9	1.4	0.3	1.4	41.5	0	66.7	5.0	106.2	1	2.9	50.3	85.2
3半旬	125.9	14.3	1.4	0.6	1.4	49.6	0.2	56.4	3.9	106.8	0	1.0	6.7	65.6
4半旬	5.8	11.5	0.3	0.2	0.3	56.4	0.8	49.7	2.1	67.8	0	1.0	6.0	55.1
5半旬	5.0	9.4	1.4	0.2	1.4	42.8	0.7	31.0	7.1	18.2	1	0.5	15.8	43.3
6半旬	3.1	10.7	1.7	0.5	1.7	15.1	0.3	56.1	5.4	36.7	0	0.2	44.2	31.7
平年数	10		10		7		10		10		10		10	

令和3年

6月15日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

ラベルの確認

帳簿に記録

1. 使用年月日
2. 使用場所
3. 農作物名
4. 農薬の種類または名称
5. 使用量または希釈倍率

周辺に配慮・飛散防止

農薬散布のお知らせ
○日時 ○目的
○場所 ○使用者名
○農薬名

農薬は 周りに配慮し 正しく使用！

農薬を知る。理解する。適正に使う。

土壌くん蒸剤は必ず被覆

くん蒸中 立入禁止

施錠して 厳重保管

移し替え 厳禁

お茶

詳しくはこちら ▶

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/ 農薬の適正使用 農林水産省 検索

令和3年度農薬危害防止運動 農林水産省・厚生労働省・環境省・都道府県共催

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法などについては、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」をご覧ください。

URL <https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課